

# 学認クラウドゲートウェイサービスの 概要と仕組み

2026年6月9日  
NII学術情報基盤オープンフォーラム2026

国立情報学研究所  
クラウド基盤研究開発センター／クラウド支援室  
西村 健

# 学認クラウドゲートウェイサービス ～大学・研究機関の認証基盤とクラウドの橋渡し～

- 一言でいえば、アクセス者が利用できるサービスを一覧にしたポータル
- 所属機関で利用可能なサービスが一覧できる
  - 機関毎のカスタマイズ（契約・連携しているサービスの指定/入力）
  - 個人毎のカスタマイズ（並び順の変更や個人利用サービスの追加）



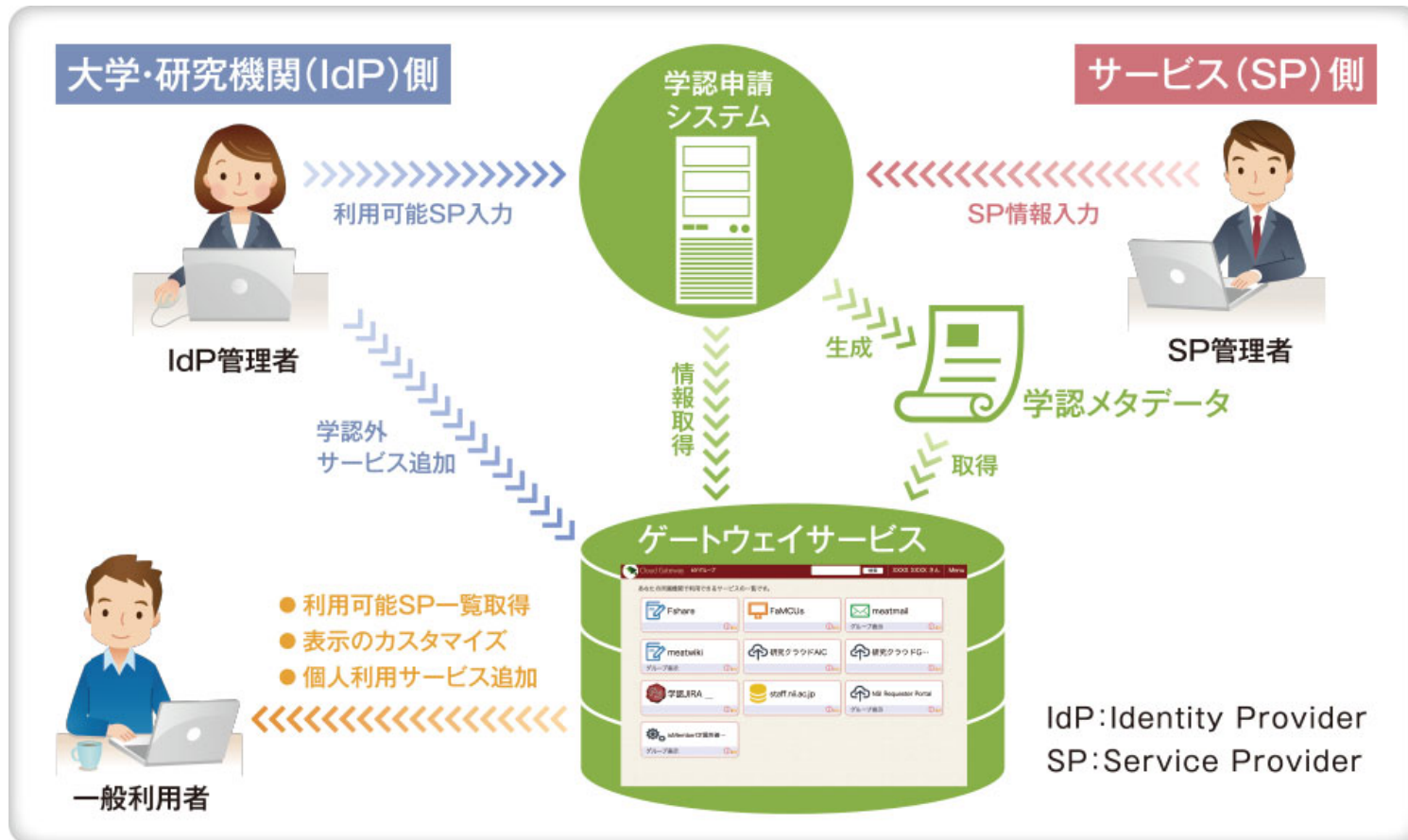
# 利用者のアクセス例

- 利用者は、ゲートウェイサービスを経由してe-Learningサイトやe-Journalサイトにアクセス



- ゲートウェイサービスに表示されているサービスは利用可能である  
= 安心してアクセスできる
- ふらっと、あるサービス(e-Learning B)にアクセスして、  
利用できなくて困る、ということがなくなる

# ゲートウェイサービスの登場人物と役割



※学認 - 大学・研究機関の認証基盤と商用・非商用のオンラインサービスの間のSSOのための枠組み

# 各種ソースからの情報を統合表示



Gateway Service MYグループ

検索 西村健さん Menu

あなたの所属機関( )で利用できるサービスの一覧です。

Elsevier: ScienceDir... Web of Science meatwiki

John Wiley & Sons ... Gmail

グループ表示

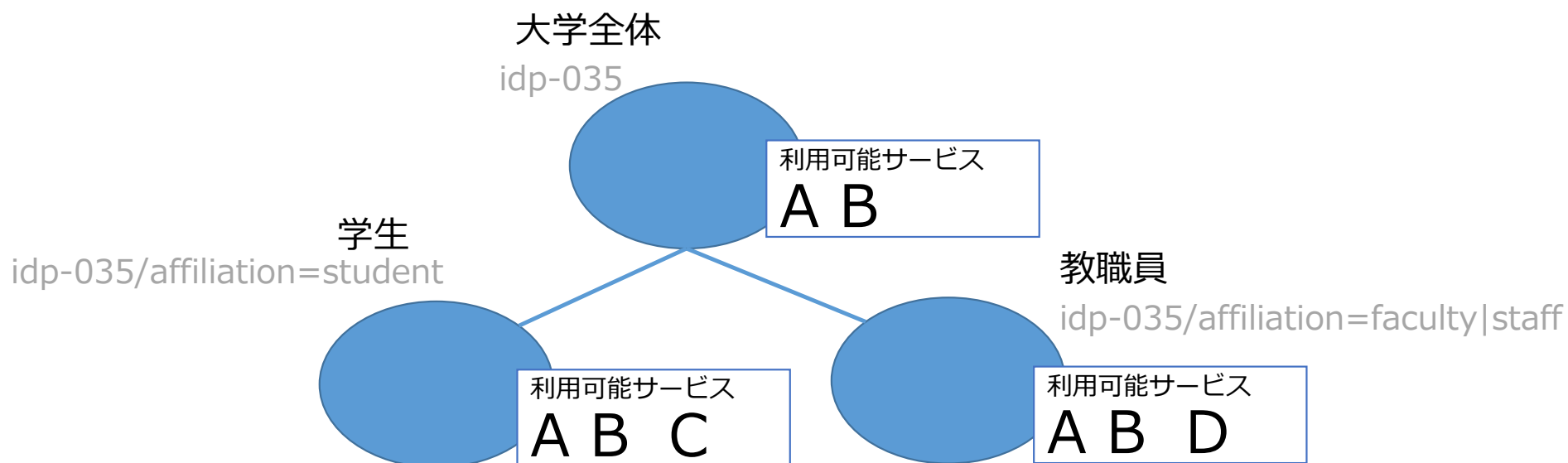
次世代mAP  
学認クラウド参加大学・研究機関  
NII クラウド支援室  
uApprove Jet Pack開発

機関契約 個人利用 グループ利用

- 「機関契約」「グループ利用」「個人利用」を統合して表示
- 個人がよく使うサービスを上部に配置することが可能
- この画面を起点として各種サービスにアクセスできる
- 他の利用者への案内(「ゲートウェイサービスから〇〇をクリックしてください」)が容易に

## 利用者の属性で分類し異なるサービスリストを提供 (機関内分類機能)

- 例えば、学生は利用するが教員は利用しないサービス (例:履修登録)、およびその逆のようなサービスへの対応
- 「〇〇向けポータル」のイメージ
- 利用者の分類 (サブグループ) は、IdPからの属性を元に自動分類
  - 特定部局特有のサービスなど、部局毎メニューもカバーできる ( )
- 定義した分類に合致しない場合は従来通り「大学全体」に登録されたサービスが表示される



# ゲートウェイサービスの提供理由（提供当初）

- 理由の一つ：学認参加のサービスにURLがころころ変わるものがある
  - プラットフォームの移行などが原因。電子ジャーナルに多い。
- 見える化によるガバナンスへの寄与も当初の理由の一つ
- 当時のプレスリリースの文面（2017年）：

大学や研究機関の教職員や学生が教育・研究活動に必要な各種のクラウドサービスやインターネット上のサービスにワンストップでアクセスできるポータル「クラウドゲートウェイサービス」(<https://cg.gakunin.jp/>)の本運用を開始しました。教職員や学生は本サービスを通じて、所属する大学や研究機関が法人契約を結んで利用可能な様々なサービスに、素早く、簡単に、アクセスできるようになります。

...

しかし、所属機関が法人契約していない場合など、必ずしも誰もが「学認」に参加している全サービスを利用できるわけではなく、教職員や学生がどのサービスを利用できるかわかりづらいという課題がありました。一方、大学・研究機関側にとっても、利用可能なサービスを集めたポータルを各機関で制作・管理するのは効率が悪く、更新が適切になされない、一部のサービスのみが管理されるといった問題もありました。さらに、教職員や学生がそれぞれ個別にサービスを利用していると、利用の全体像を組織として把握できないために、不適切な利用といったセキュリティ面の問題を認識できなかったり、組織全体で利用資源や利用ノウハウを集約するという効率化が難しくなったりするという課題がありました。

...

例えば、各機関が法人契約しているクラウドサービスや学内サービスなどを、その機関に所属するすべての教職員や学生に提示することができます。

# ゲートウェイサービス提供の道のり

---

想定外：

- 学認参加サービスについての情報不足
  - 当初と比べて良くはなっていない
  - 補うべき情報が学認事務局にも集まっていない現状
  - コミュニティスペースで情報提供をお願いする試みは成功せず
- サービスが学認参加しているものばかりではない
- →近年では学認にこだわらず学内で利用するサービスを登録してくださいと案内
  
- 他の試み
  - 機関内分類機能（前述）
  - パブリッククラウドSSO（中断）
    - AWSマネジメントコンソールSSO（拡張属性の追加）
    - Dropbox SSO
    - Slack SSO

# ゲートウェイサービスの今後の展開



- 当初の目論見から外れた部分もあり、  
本サービスの将来的な形についてご意見をお聞きし検討していきたい  
と思います
- 注：ここでは学認のグループ機能は対象外とします。以下のトラック  
の話題とさせていただきます。  
本日12:30-14:00 Trust Tech Future 2030

# 機能の整理と提供形態の選択肢

- 本サービスは典型的な情報の生成・消費の形態である  
プロデューサー → コンシューマー  
URL等含めたサービス情報提供 → 表示

## ■情報源

- 学認SP?
- 各大学? (学内サービスについてはその大学にしか情報がない)
- 上記のミックス?

## ■一般利用者への表示形態

- 中央集約型? (現在のゲートウェイサービス)
- 各大学のポータル?